

1. 授業の目的

広島への原子爆弾投下から68年。平和を考えることは、命の大切さを見詰め直すことです。科目名にサブタイトルを付けるなら「命－人間が人間らしく生きるために」。原爆は人間にどのようなことをもたらしたのかを「事実」に基づいて学んでください。核時代をどう生きるかを一緒に考えましょう。核分裂の発見が国際秩序に与えた影響や、原子力の「平和利用」なども取り上げ、多角的・科学的に被爆地ひろしまの意味と役割を検証します。

2. 授業計画

回	大項目	講義内容等
1	きのこ雲の下でどんなことがあったかそのⅠ	①ガイダンス（授業の目的、内容、進め方など） ②被爆後間もない時期の手記。あなたは何を読み取りますか。
2	きのこ雲の下でどんなことがあったかそのⅡ	被爆者の写真と、子どもを奪われた母親の証言ビデオ。どんなメッセージが聞こえますか？
3	ゲストスピーカー	被爆体験を聴く。
4	あなたは雑草の芽吹きに感動したことがありますか	「75年間、草木も生えない」と言われた被爆地。雑草が芽を出したのを見つけ、被爆者は「生きる勇気と希望」を取り戻しました。
5	被爆地の復興と市民生活	復興の取り組み（ある地場企業の復帰、平和記念都市建設法など）と市民の力によって、世界平和を象徴する都市になりました。
6	核時代の幕開け～核分裂の発見とマンハッタン計画	A P通信「20世紀10大ニュース」のトップとなった原爆投下。その開発の経緯と日米の原爆観・歴史認識の違いを考えます。
7	広島はどんな都市だったか	広島の部隊によるマレー半島の住民虐殺、日清戦争と広島、アジアの国々の原爆観などを通じて、被害と加害を見詰めます。
8	核開発競争と冷戦／冷戦後の世界	核戦争の危機（朝鮮戦争、キューバ危機ほか）、核兵器を放棄した国、「アラブの春」などから国際政治の構造を考察します。
9	核時代を生きる	フクシマとヒロシマ、チェルノブイリ事故、原子力の「平和利用」に向けた被爆地の意外な過去…。核時代の意味を探ります。
10	遺伝・差別・偏見	「医学」「心のキズ」を手掛かりに被爆者の願いを理解し、何をどのように「継承」するかを考えましょう。
11	「原爆は人間的悲惨として知られたか」	広島思想史。原爆被災白書づくりを政府に迫ったジャーナリスト金井利博氏、広島で自分を鍛えた大江健三郎氏ほか。
12	非核三原則を「国是」とする国で	あるジャーナリストが暴いた日米の「核持ち込み密約」を教材に「抑止論」について考えよう。憲法9条を読もう。
13	平和教育Ⅰ	小学校における平和教育の意義と課題について考える。
14	平和教育Ⅱ	小学校における平和教育の実践例に学ぶ。
15	人間が人間らしく生きるために	戦争がなければそれだけで平和？ オバマ米大統領の演説「核兵器のない世界」を読んで、これからの生き方を考えよう。

【注】ニュース運動型の授業とするため、授業計画は変更する場合があります。

3. 到達目標

昭和の歴史を学ぶことで、過去の出来事を自分のこととして受け止める力、その意味を考える力、考えたことを他人に伝える力を伸ばしてほしい。毎回、授業中に考えたことを「記入用紙」に書いてもらい、それを教材として使うなど、「双方向型の授業」を心がけます。この授業の合言葉は「自学自習」です。配布物は持ち帰って必ず読み直し、復習の習慣を身につけましょう。

4. 評価方法

評価方法：期末レポート40%、中間レポート30%、毎回の「記入用紙」30%

5. 教科書、参考文献

教科書、参考文献：特にありません。毎回、資料を配布します。